

令和3年1月12日 3学期始業式講話

みなさん、あけましておめでとうございます。2021年を迎え、いよいよ今日から3学期が始まります。

2学期の終業式では、みなさんに「考える」ということについて齋藤孝さんの著書の内容をご紹介しました。そして、オンライン学習ができるように Google Classroom への参加登録をお願いしました。校長クラスに登録いただいたみなさんには1月1日に課題を配信しました。提出いただいたみなさんにはお約束どおりプレゼントをお渡しします。休憩時間に学校の校長室を覗いてください。ただし、出張等で不在にしていることもあります。ご了解ください。

課題提出は1月7日が締め切りでしたが、74名の登録者の内、38名の方から回答をいただきました。課題は「1 あなたが今年実現したいことはどんなことですか？ 2 1の実現のために、あなたがこれから取り組むことは何ですか？具体的に答えてください。また、それは、いつ、いつから、いつまでに実行しますか？」という問いでした。

「1 実現したいこと」に対する回答で一番多かったのは、一言で言うと「自分磨き」に関わるものでした。「下腹の脂肪を落として腹筋を割る」「ムキムキ&パキパキになる」という身体を鍛える目標を掲げた人や「家族に手料理を振る舞う」「英会話ができるようになる」など、これまでできなかった新しい試みをあげた人、「釣りで自己ベストを更新する」というように、これまでの取り組みをレベルアップさせようとするものもありました。

次に多かったのが「勉強」に関わるものです。「テストで1つ学年1位をとる」「定期テストでクラスで10位以内に入る」「全教科60点より上にする」などです。3番目に多かったのは「資格取得」に関わるものでした。「英検2級に合格する」「TOEFLを受ける」「漢検2級に合格する」「オーディションを受ける」というような回答がありました。そして、4番目は「進路」に関わるもので「志望校に合格する」「新しい環境に慣れ、自立する」など。最後は「部活」で「県で1位になる」という回答がありました。

「2 1の実現のために、これから取り組む具体的なこと」についても、いろいろな取り組みの計画を紹介してくれました。また、「いつ、いつから、いつまでに」という問いには「今日から」取り組むと答えてくれた人が多く、目標実現への意欲の強さと意気込みを感じました。ただ、「具体的に答えてください」という私からの要望に対して、「知識や習慣を身につける」「早寝早起きをする」「辛いことも逃げ出さずにやる」「毎日コツコツ取り組む」など、やや具体性に乏しい回答が多かったのが残念でした。中には「1日最低30分取り組む」のようにきちんと明示してくれた人もいましたが、知識や習慣を「どうやって」身につけるのか、早寝早起きとは「何時に寝て何時に起きる」のか、辛いことも逃げ出さずの「辛いこと」とは実際には何なのか。そこを明瞭にしてもらおうともしっかりとよかったです。

今回、みなさんにこのような課題に取り組んでもらったのは、やはり「考える」ということに取り組んでほしかったからです。「あなたが今年実現したいこと」は、みなさんにとって、明らかに「自分事」のはずです。そして、あなたの気持ちを文字におこして書き、表明することは「読む、書く、話すで考える」の「書くこと」に他なりません。また、「いつから、いつまでに」と時間を設定してもらうことは、「短い時間を設定して考える」と同義です。つまり、2学期の終業式で紹介した齋藤さんの主張を、みなさんに経験して欲しかったのです。

ですから、実現したいことがどんなものであっても、みなさんの「考える」という行為の中から生まれたものである以上、私はそれはとても大切な目標であると思います。ぜひ「ムキムキ&パキパキ」になっ

てください、ぜひ「オーディション」を受けてください、ぜひ「県1位」になってください。みなさんの目標が実現することを祈ります。成功体験は人を次のチャレンジに掻き立てます。挑戦への勇気をもたらします。頑張ってください。

最後に、この「考える」ということに関連して、もう一つだけ話をさせてください。

私事で恐縮ですが、実は昨年11月末から母が体調を崩し、12月29日の夜から今年の1月4日の朝まで、私は母のいる施設に入り、付き添うことになりました。それは大変で、夜中でも1～2時間おきにトイレまで母を背負い、お尻を拭くところまでやらなければなりません。水が欲しいと言えば冷蔵庫からお茶を取り出して口元まで持っていきます。母は寝返り一つ自分でできないので、何かあれば私の名前をよびます。そのため、私はこの間はほとんど眠っておらず、正月明けには体力も気力も限界に達していました。「なぜ、こんな時に母は倒れたのか…」「なぜ、自分だけが面倒をみなければいけないのか…」など、いつしか不平不満のマイナスの感情だけが大きくなっていました。

しかし、1月5日にNHKで放送された番組、クローズアップ現代「コロナ重症者病棟 パンデミック下の年末年始」を観て、私は目を覚ましました。“第3波”の感染拡大が続く中で年末年始。そもそも冬は急病患者も多く、例年医療態勢はひっ迫する傾向にあります。最前線の重症病棟がある聖マリアンナ医科大学病院では異例の事態が続いていました。クリスマスも家に帰れない医療従事者たち。仲間と交代しながら無言で食べるクリスマスケーキ。院内感染を防ぐため、マスクを外して話すことは一切禁じられています。そして、連日のように亡くなっていく患者の看取り。人手不足で病院を抜けることができず、自分の姉の手術にも立ち会えなくなった看護部長が、泣きたい気持ちを押し殺してスタッフたちを励まします。夜勤明けで、くたくたになってアパートに戻ってきた看護師に「汚い」という言葉を発したご近所の人。そして、病院ではベッドを増やしたにもかかわらず、1月1日につき満床状態に。

私は、考えなおしました。この状況下で実の母親の介護ができるのはとても幸せなことであると…。この医療従事者の方々の崇高な思いを前に、私には自分勝手な論理で不平不満を募らせていた自分が実に小さく、情けない存在であるように思えてきました。医療従事者の方々はお金のために頑張っているのでしょうか。それとも名誉のために頑張っているのでしょうか。いいえ。ただ、ただ、患者の「命を救いたい」という一心で頑張っているのです。命の尊さ、かけがえのないその価値のために、自分の大切な時間を一人ひとりの患者と共有しているのです。

私が思いを改めることができたように、「考える」ためには、そのために必要な情報が要ります。知識が必要です。そのことを再確認した瞬間でした。課題を考えてくれたみなさんも、これから考えるというみなさんも、もう一度、必要な情報がないかをチェックしてみてください。正確で、具体的で、勇気の湧く知識を得て活用してください。そして、みなさんの実現したいその目標も、突き詰めれば人として「よく生きる」という崇高な人間の姿につながるものであることに気づいてほしいと思います。

以上で私の講話を終わります。